

# これがオススメ! 読み聞かせ本

中学年

指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさん  
の本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さ  
て実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読  
んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせが  
できるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

なまけものの太郎は、龍に  
なってしまった母を訪ねて旅  
にでます。九つの山を越え、  
悪い鬼を退  
治し、とう  
とう龍に出  
会い、龍と  
力を合わせ  
て湖を豊か  
な田にする  
という壮大  
な物語で  
す。



## 『龍の子太郎』

松谷みよ子／作 田代三善／絵  
(講談社)

子どもたちが自分で内容を  
理解しながら読むには3年生  
くらいからがよいでしょう。し  
かし、筋の面白さや語り口の  
面白さ、そして太郎の冒険に  
わくわくしながら読み聞かせ  
を聞くことは、1年生2年生  
でも楽しむことができます。

物語は全部で21の小さな節  
に分かれています。1日に1  
節(10ページ前後)読むと、  
大体1か月かかります。と書  
いてしまうと自分には難しい  
と思ってしまうかもしれませ  
ん。でも大丈夫です。子ども  
たちが「先生、つぎはどうな  
るの?」「早く次を読んでね」  
ときっと言ってくれるからで

す。早口にならないように、  
昔話をするように、ゆっくり  
読みたいものです。

最後に太郎は、「そっだ、し  
ごとはこれからなんだ。いこ  
う、おかあさん、いっては大  
らこう!」と言って冒険の終  
わりを締めくくります。太郎  
の成長とともに子どもたちも  
成長しているように感じます。  
「みんなたのしく、しあわせに  
くらしたということですよ。(お  
わり)」と、余韻を味わうよう  
に読み終えて子どもたちの表  
情を見ると、どの子も満足そ  
うにここにこにこしていること  
でしょう。